

[目次](#) [前回](#) [次回](#) [略解](#)

## 応用ベクトル解析

樋口さぶろお<sup>1</sup> 配布: 2006-07-20 Thu 更新: Time-stamp: "2006-07-20 Thu 11:49 JST hig"

### 12 略解 – ストークスの定理

$S$  の境界は  $\partial S = C_2 \sqcup C_3$  の 2 つの部分からなる. パラメータ表示は

$$\mathbf{r}_2(t) = \mathbf{r}(t, 2) = (2 \cos s, 2 \sin s, 2) \quad (0 \leq t < 2\pi)$$

$$\mathbf{r}_3(t) = \mathbf{r}(t, 3) = (3 \cos s, 3 \sin s, 3) \quad (0 \leq t < 2\pi)$$

ただし, 右ねじの法則から,  $C_2$  は  $\mathbf{r}_2(2\pi)$  が始点,  $\mathbf{r}_2(0)$  が終点,  $C_3$  は  $\mathbf{r}_3(0)$  が始点,  $\mathbf{r}_3(2\pi)$  が終点. よって, ストークスの定理より, 積分は,

$$\begin{aligned} & \int_{C_2} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} + \int_{C_3} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} \\ &= \int_{2\pi}^0 \mathbf{V}(\mathbf{r}_2(t)) \cdot \frac{d\mathbf{r}_2}{dt}(t) dt + \int_0^{2\pi} \mathbf{V}(\mathbf{r}_3(t)) \cdot \frac{d\mathbf{r}_3}{dt}(t) dt = (-4 + 9) \times 2\pi = 10\pi. \end{aligned} \quad (1)$$

---

<sup>1</sup>Copyright ©2005,2006 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

## 演習問題

飯田先生の過去の期末試験問題を利用させていただきます。この問題の解答は配布しませんが、<http://whale2.math.ryukoku.ac.jp/> > 過去問からたどって得られるものもあります。

UserID:

Password:

### 1(樋口 2005 年度)

スカラー場  $f(\mathbf{r}) = e^{x+2y-3z}$  とベクトル場  $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (xy^2, yz^2, zx^2)$  に対して次の量を計算しよう。

1.  $\nabla f$
2.  $\nabla \cdot (\nabla f)$
3.  $\nabla \cdot \mathbf{V}$
4.  $\nabla \times \mathbf{V}$

### 2(飯田先生 2002 年度改)

曲面  $S$  のパラメータ表示を  $\mathbf{r}(s, t) = (2 \sin s \cos t, 2 \sin s \sin t, \sqrt{2} \cos s)$  ( $0 \leq s < \pi, 0 \leq t < 2\pi$ ) とする。  $\mathbf{r}_0 = \mathbf{r}(\frac{1}{4}\pi, \frac{1}{4}\pi) = (1, 1, 1)$  における接平面の方程式、およびパラメータ表示を求めよう。

### 3

立体  $D$  のパラメータ表示を  $\mathbf{r}(r, \theta, t) = (r \cos \theta, r \sin \theta, t)$  ( $0 \leq r \leq 2, 0 \leq \theta < 2\pi, -1 \leq t \leq 2$ ) とする。スカラー場  $f(\mathbf{r}) = x^2 + y$  を考える。体積分

$$\int_D f(\mathbf{r}) dV \quad (2)$$

を求めよう。

### 4(飯田先生 2002 年度)

曲面  $S$  のパラメータ表示を  $\mathbf{r}(s, t) = (s, t, 2 - s^2)$  ( $-1 \leq s \leq +1, 0 \leq t \leq 1$ ) とする。ベクトル場  $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (-y, z - x, y)$  に対して、面積分

$$\int_S \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} dS \quad (3)$$

を求めよう。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  の向きは、 $\mathbf{n}$  の  $z$  成分が正の値を取るように選ぶ。

### 5

立体  $D$  のパラメータ表示を  $\mathbf{r}(r, \theta, \phi) = (r \sin \theta \cos \phi, r \sin \theta \sin \phi, r \cos \theta)$  ( $0 \leq r \leq 3, 0 \leq \theta \leq \frac{1}{2}\pi, 0 \leq \phi < 2\pi$ ) とすると、 $D$  は(中身のつまった)半球である。 $C = \partial D$  を、円板と半球面からなる境界の曲面とする。 $\mathbf{n}$  を  $C$  の外向き単位法線ベクトルとする。ベクトル場  $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (y^2, -x^2, z^2)$  に対して、

$$\int_C \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} dS \quad (4)$$

をガウスの発散定理を利用して計算しよう。

### 5'

先週やったストークスの定理の例題。

## お知らせ

実習室や自宅で、Web 上で講義の録画を見られます。再生には Password が必要です。

UserID:

Password:



<http://hig3.net>

科目のページ + リクエスト / 質問 / 苦情用掲示板